

令和5年度

あまのくらし部会
活動報告

あまのくらし部会の役割

- ・障害のある人の地域生活を支援するための課題について協議する。
- ・あまのくらし部会では、災害時にも生きる地域ネットワークづくり、親の高齢化に伴う障害のある人の自立生活や相談支援体制の整備などについて取り組んでいる。

令和5年度の取り組み

くらし部会では、テーマの一つとして災害についての取り組みを継続してあげている。昨年度はあまのくらし部会の委員が「避難所運営シミュレーション」を体験して多くの気づきを得たが、今年度は昨年度同様、ゆめ風基金の八幡氏を講師に迎えフォーラムを実施して当事者や家族、地域の方と一緒にシミュレーションを行い、より多くの方たちと意見交換ができた。

部会の開催と協議内容

6月	フォーラムの内容、役割等の検討
8月	フォーラムの内容、タイムスケジュール、役割分担、当日の流れ等について検討
10月	あまのくらし部会フォーラム「避難所シミュレーションを体験しよう!」実施
12月	フォーラムの振り返り(アンケート)、今後の活動について
2月	市政出前講座受講(「防災」、「避難行動要支援者の避難支援について」)
4月	今年度の振り返り、次年度について協議

あまのくらし部会フォーラムの開催

日 時: 令和5年10月24日(火) 13時~15時30分

場 所: 中央北生涯学習プラザ大ホール

内 容: 避難所を運営する時に障害のあるお子さんや障害のある方、

高齢者にはどのような配慮をしたらいいのか、避難所で障害のある方を
受け入れるのはどのような配慮をしたらいいのか、という疑問を
ゆめ風基金の八幡氏やグループワークを通じて当事者の方、地域の方、
支援者の方等と一緒に学ぶ。

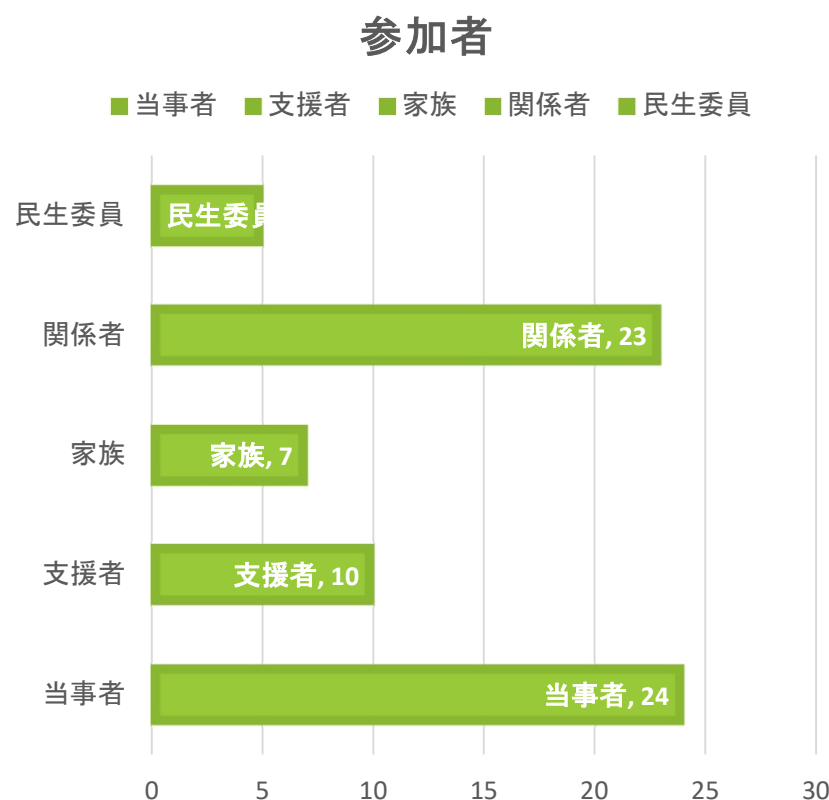


あまのくらし部会フォーラムの開催

参加者：69名

<内訳>

- ・当事者 24名
- ・支援者 10名
(事業所、地域包括支援センター、ヘルパー事業所等)
- ・家族 7名
- ・関係者 23名
(あまのくらし部会委員、委託相談支援事業所、行政等)
- ・民生委員 5名

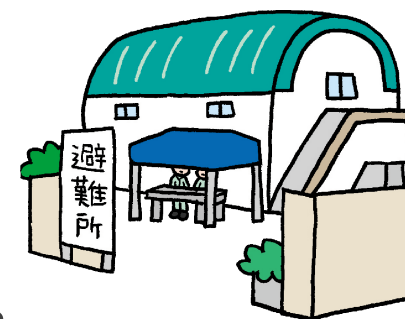


避難所運営シミュレーションとは？

避難所の正しい開設手順を知り、避難所に来た障害者や高齢者の対応等、地域住民の誰もが過ごしやすい避難所作りを学ぶこと。

<目的>

- ・避難所運営の正しい開設手順を知る。
- ・避難所に来た障害者や高齢者などの対応を学ぶ。
- ・障害者とともにグループワークをすることで、障害者の理解につなげる。
- ・避難所は単に逃げ込む場所ではなく、様々な役割があり、障害者自身がその役割を担う場所であることを知る。
- ・できるだけ地域の方が地元の障害当事者と一緒にやったださることが理想。



実際の設問

設問1

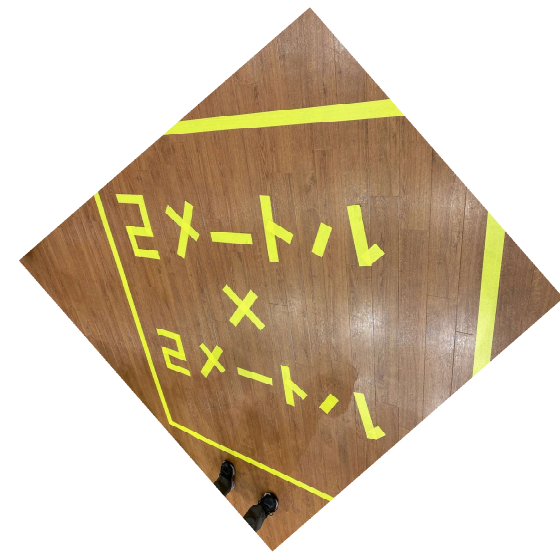
すでに100人ほどの人が避難所に集まっています。また次々と避難をしようとする人も来ています。学校は休みなので、校門は図面左側の正門しか空いていないとします。

受付と本部はどこに設置すればよいと思いますか？

設問2

体育館に100人を避難させるとします。一人当たりの面積は4㎡とします。

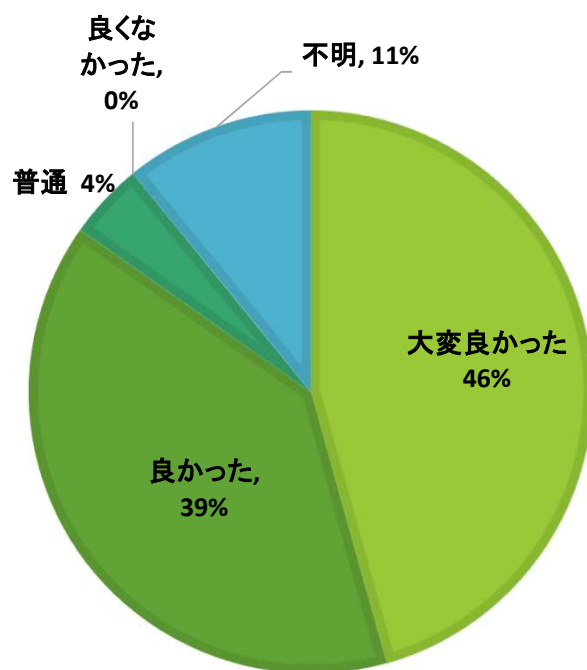
体育館内に通路を確保してください。



フォーラムの様子



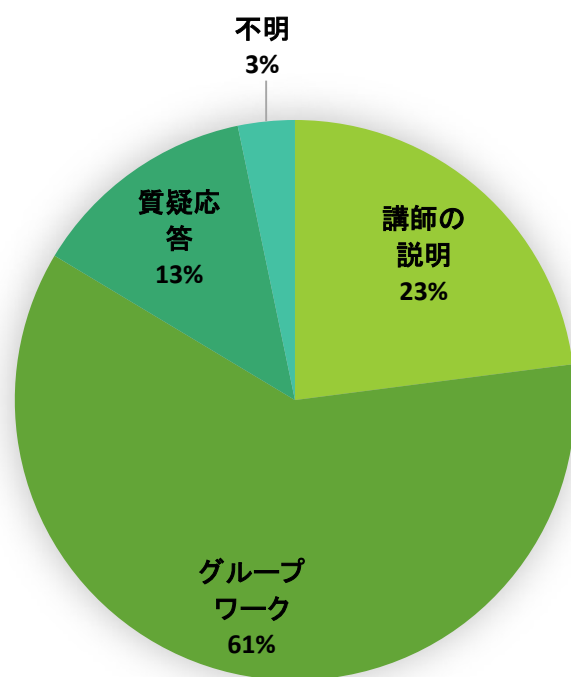
アンケートより①



Q:避難所運営シミュレーションを体験してどうでしたか？

- ・身近な問題として考えてみたいと思った。知らない世界を教えてもらった。これまで考えたこともなかった。(当事者)
- ・今までにない体験をした。立場の違いで大切なことが違って、色々な視点で考えられた。障害の違う方の意見も聞けて違いによって手だての違いが分かってよかった。(家族)
- ・当事者の生の声が聞けて勉強になった。今までにない発想が知れて勉強になった。色々な視点からとらえることが大切だとわかった。(支援者)

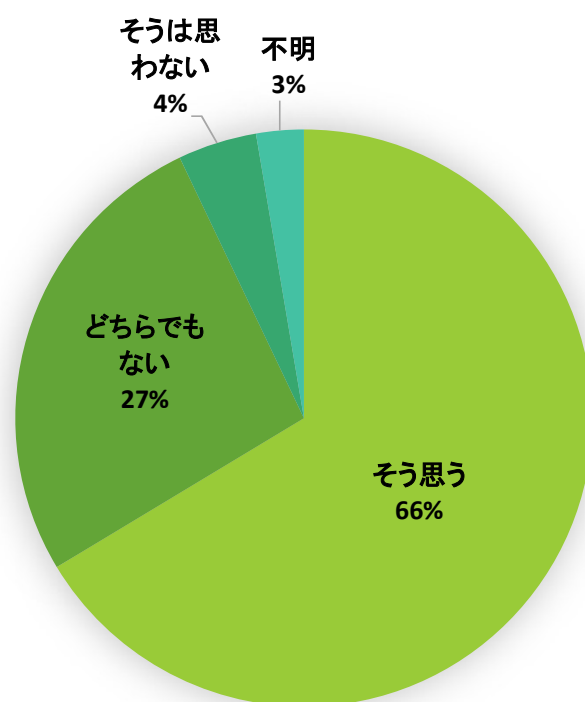
アンケートより②



Q:避難所運営シミュレーションを通して興味を持ったところを教えてください。

- ・一緒になって考えられて良かった。それぞれの立場で考え方が違うから他の人のことが分かったことが多い。難しかった、なるほどと思うことがたくさんあった。(当事者)
- ・いろんな状態でどう考えるかを分らせていただいた。(家族)
- ・別障害への配慮や工夫を聞き、イメージすることができた。障害種別だけでなく同じ障害を持った方でも意見が違いやはり個性の大事さを感じた。(支援者)

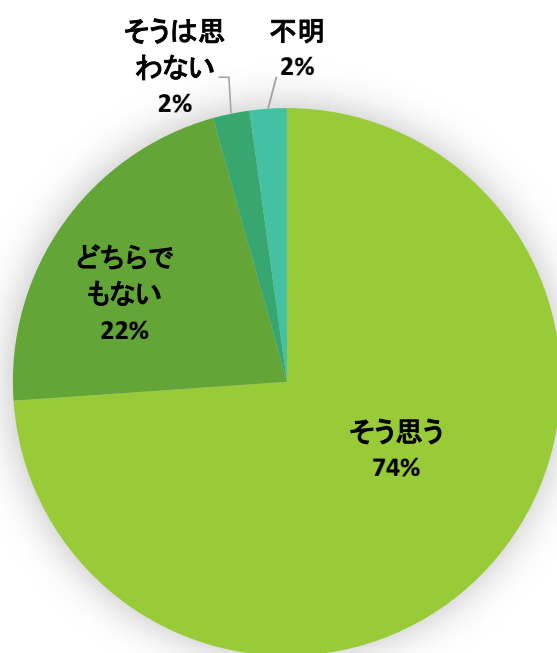
アンケートより③



Q:避難所を身近に感じ、災害時に実際に利用してみようと思いましたか？

- ・阪神大震災時避難所を利用したことがあるが、また災害時には利用しない。何か月も生活が続くかもしれないと考えなかったが気持ちよく過ごしたい。(当事者)
- ・子供が重度の知的障害で迷惑をかけてしまう、本人もパニックになるので行きにくい。当事者が利用することで必要な支援や配慮を知ってもらう機会になると思う。ニーズにあっていないように思う。(家族)
- ・実際に必要としている人に利用してもらいたい。必要時には協力したいと思った。(支援者)
- ・できる事から始める必要性を感じた。(自治会役員)
- ・自主防災会(組織)の強化が必要だと感じた。(自主防災組織)

アンケートより④



Q:あなたの地域(団体)で避難所運営シミュレーションをしてみたいと思いましたか。

- ・居心地の良い避難所を作りたい。受け入れてもらえないだろうと思う。町内会が活発になって欲しいと思う。(当事者)
- ・自分からは言い出しにくい。皆と一緒に考えたい。(家族)
- ・何か始めないと何も進んでいかないと思った。避難所運営の中心になるのは町内会なので是非町内会にもこういった取り組みを知ってもらいたい。(支援者)
- ・できる事を探す必要を感じた。(自治会役員)
- ・自主防災訓練に取り組んでいる。(自主防災組織)

フォーラム開催の感想（委員）

- ・参加者が多く、関心が高いテーマだということが分かった。
- ・当事者や支援者、地域の方とグループワークができて、勉強になった。特に当事者の生の声を聴くことができたことがよかった。
- ・もっと地域の人に参加してもらい、一緒に考えていきたい。
- ・防災や避難のことを考えるいいきっかけになった。
- ・障害種別だけでなくその人が暮らしている環境等でニーズが違うことがわかった。
- ・地域の人にどう広げていったらよいのか、課題だと思う。
- ・今の災害に対する尼崎市の取り組みや地域での災害についての取り組みについて知り、もっと理解を深めたい。

市政出前講座受講

「防災」、「避難行動要支援者の避難支援について」を危機管理安全局 危機管理安全部 災害対策課と福祉局 福祉部 重層的支援推進担当にお越しいただき、あまのくらし部会委員が受講し、より防災に対して知識を深めた。

ハザードマップを見ながらマイ避難カードを作成し、自助・共助・公助の役割や避難行動要援護者名簿等について学んだ。

市政出前講座アンケートより感想

・とても良かった。法人でも出前講座を活用したい。いつも利用している場所の津波や洪水のハザードマップを知りとても勉強になった。これらを意識することの重要性も感じた。個別避難計画をすべて埋めるのは難しい利用者でも、マイ避難カードなら勧めやすいと感じた。

・洪水や津波などによって同じ地区でもハザードマップに違いがあるなど、自分たちの事業所のリスクを具体的に知れて良かった。それぞれの準備やマニュアルが必要だとわかった。利用者・ご家族と一緒に出前講座を受けたいと思った。意識向上や意見の吸い上げの機会にもなると思う。地域ごとの出前講座や学習会、防災に関しての話し合いは大事だと思う。近隣の人と共有しながら、避難の場合などお互いが気にし合えるよう顔の見える関係、声を掛け合う関係が必要だと思う。

・福祉避難所や自宅避難についても知りたかった。

令和6年度の取り組みについて

・今年度は日常生活で抱えている様々な困り事や今までくらし部会での活動を通して得た防災の知識等を地域の方にも知ってもらい、一緒に考え、繋いでいけるようなきっかけ作りを目指し活動する。